

---

# 夏空

偉

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

夏空

### 【著者名】

偉

【ISBN】

N8569A

### 【あらすじ】

毎日何も変化もない中でいる社会人“私”は、お気に入りの曲を聴き“何か”をしたくなる。

(前書き)

少し意味不明な文章かもしませんので、ご注意下さい。

お気に入りのアーティストの夏ソングを聞き、じつとしていたれなくなつた。

風とか勢いを感じれるその曲は、毎日なんの彩りのない生活を送る社会人な私に何故か刺激を与えた。

心が熱くなるのを感じた。カラオケで歌つてるだけでは物足りない、身体中でリズムを感じてもまだ足りない。

もつともつと何かが欲しい！今の生活のように何もないままでは勿体無い。

だけど凡人な、今まで趣味らしい趣味のなかつた私には“求めていれる何か”が何かわからない。

刺激されて始めたギターも所詮はお遊びすぎ、いきなりの上達は見込めない。

スポーツだつて

「自分には合わない」

とかですぐ挫折…。

でもあの曲を聞くと胸が熱くなるのを止められない。何かしなくちやいけないきがして、私は街を駆けた。

ジョギングとか陸上競技の練習とかそんなものじゃなく、ただ無我夢中で乱暴に駆けた。日頃の運動不足で足がもつれそうだったけど、とにかく走り続けた。

「ハア…ハア…」

街から離れた丘にある公園に私はいた。無我夢中だった為に髪はボサボサ汗はダラダラ、はつきりいって最悪な格好。

「もうダメ～」

芝生の上に倒れるように寝転がる。体を反転させ仰向けになると、夏の空が広がっていた。

高くて青い空に大きな入道雲が浮かんで、時間を忘れ見いってしまった。

胸の熱さはまだかわらないけど何となく、焦らなくていいのかなって思えてきた。

もしかしたらあの曲はつまらない私の毎日を変えようとする、始まりの号令だったのかもしれない。現に私はこうやって空を仰いでる、考えがちょっとだけ前向きになつた。

『私には私にしか出来ない“何か”があるかもしれない…』

私は立ち上がりちょっとはしたないけど、シャツの袖で汗を拭いた。“何か”に出会えるまで頑張ってみよう、ギターも上手くなる、スポーツだって何度も始めちゃおう。

だつてこんなにも胸が熱いもんね。

（後書き）

いかがでしたか？この話は実際に作者が感じていることです。お気に入りのアーティストの曲を聞いて心を動かされ、自分にしか出来ない何かは無いかとよく考えます。スポーツが続かないのも本当です（笑）好きなんですけどね。

きっとこう感じてる人は少なくないと想います。そんな話でした。読んでいただけてありがとうございました！

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8569a/>

---

夏空

2010年10月15日22時07分発行